

第3学年 国語科学習指導案

平成30年9月26日(水) 5校時

3年2組 19名

指導者 宍戸 舞子

研究主題

問題を解決するために論理的に考えていく児童の育成
～プログラミング教育を通して～

1 単元名 こんなやり方をおすすめします

2 単元の目標

伝えたいことを中心をはっきりさせて、分かりやすく説明するカードを書き、読み合って表現の工夫やよさについて意見を交流する。

3 プログラミング教育の視点

相手に伝えたいことをわかりやすく説明する文章を書くために、説明の手順をフローチャートや図などで考えることで、読み手を意識した文章を書くことができると考えた。

【本校のプログラミング教育における評価規準】

- ・手順を整理し、フローチャートに表している。(1知識・技能 ③【技能】)
- ・具体的な手順を、相手に分かりやすくなるように考えている。(2思考力・判断力・表現力等 ①【課題把握・手順の整理】)

4 評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	書くこと	言語についての 知識・理解・技能
単元の 評価 規準	・伝えたいことを決め、読む人に分かる文章を書こうとしている。	・読む人に分かりやすくするための工夫を考え、書き方を工夫してカードを書いている。 ・友達のカードのよいところや工夫を見付け、伝えている。	・自分の考えたことを、適切な表記を用いて文章に書いている。
学習活動に即した具体的な評価規準	①学習への意欲や見通しをもち、伝える相手を意識して、順序よく手順を書こうとしている。 ②自分のカードに生かすために、教科書から様々な工夫を見付けている。 ③相手によく伝わるような題名や前書き、見出しを考えている。	①書くのに必要な事柄を、順序を考えながら集め、メモしている。 ②メモをもとに、内容を整理しながら書いている。 ③メモや下書きをもとにしながら、分かりやすい表現で書いている。 ④友達の「おすすめカード」を読み、そのよさを感想カードに書いている。 ⑤友達のカードのよいところや工夫点を見付け、感想を発表している。	①「おすすめカード」の構成について理解している。 ②説明する相手に応じて、文章や絵、図を用いて書いている。

5 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の指導事項「書くこと」の「ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」と、「カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと」に対応している。

日常生活の中で、何かを身に付け、上手にできるようにするための方法や、やり方が記述された説明書を読んだことがある児童は多いであろう。しかし、友達との会話の中で話題に出ることはあっても、それを実際に詳しく説明したり、文章に表したりしたことがある児童はほとんどいないように思われる。

そこで本単元では、そのような経験を話し合ったり、教室で実物の説明書や手引きを一緒に読んだりする等して、学習活動についての興味を高め、見通しをもたせたい。また、単元の後半では、自分の得意なことについてのやり方や作り方を紹介する。具体的な手順を箇条書きにしたり、絵や図を入れたりする等、集めた資料を効果的に使い、目的や必要に応じて書く力を育てていきたい。

6 児童の実態

本学級の児童は元気にあふれ、体を動かすことや集団で協働することが好きである。2年生の時には、国語や算数等の他教科において、コンピュータを用いないアンプラグドの実践の考え方を用いて、フローチャートを活用して考えた経験がある。

国語科「紙パックで、こまを作ろう」では、教科書に載っている紙パックごまの作り方の手順を分かりやすく言葉でまとめ、付箋に記入していき、フローチャートを作成した。その後、フローチャートの中に、紙パックごまの工夫を一人一つ付け足した。その際、付箋を使ったことで、フローチャートのどの場所に付け足すとよいか試行錯誤しながら考えることができた。また、実際にそのフローチャートを見ながら、一人一人がオリジナルの紙パックごまを作成した。

4月に行ったプログラミングに関するアンケート③の、「何かをするときに、やることを整理したり、順番を決めたりしていますか」の質問には、8割以上の児童が「よくする」「たまにする」と答えている。児童には、何かをするときに順序よく考えていくことが、だんだんと身に付いてきているのだと考えられる。

一方で、アンケート⑦の「自分の考えを分かりやすく伝えたり、発表したりしていますか」の質問には、「しない」「あまりしない」と答えた児童が4割いた。相手の立場に立って、自分が考えたことを分かりやすく伝える経験は少なく、意識することができていない児童がまだいることが分かる。

そこでこの学習では、自分の得意なことについてのやり方や作り方について、相手を意識して分かりやすく説明することができるようにしていきたい。その手立てとして、フローチャートや図を用いて説明する文章を書くことへとつなげていく。今までの経験をもとに、学習の最後には、児童一人一人が伝えたいことを決め、「おすすめカード」を書いて発表することをまとめとして進めていきたい。

7 研究主題に迫るための手立て

論理的に考えていくために

(1) フローチャートの活用

導入場面では、本のしおりの作り方を教師が示し、その手順の並び替えをさせる。その際に、手順を順序よく並べたものを「フローチャート」という言葉で示されるということを伝える。その後、レーシングカーの完成品を見せ、児童がその作り方のフローチャートを作成する。フローチャートを作成する際は、相手に分かりやすく伝えるために、情報を整理し、どの順番で並べるとよいのかということを考えさせる。それによって、相手に手順を分かりやすく伝える方法の一つとして、フローチャートが活用できるということに気付くと考えた。

(2) 付箋の使用

フローチャートを作成する時に、付箋を活用する。付箋はワークシート上で自由に動かすことができ、友達の見聞を聞いて気付いたことは、その場で新たな付箋に書いて付け足すことができる。レーシングカーの作り方の手順を付箋に書き出し、動かしたり増やしたりする活動を通して、順序立てて考えることを実感させることにつながるのではないかと考えた。

(3) 題材の設定

本時の導入部分では、本のしおりの作り方を提示し、作り方の手順を間違えると上手く作ることができない題材を用いる。手順のうち、一つが抜けると完成しないということを明確に示し、ものを作る時には、正しい順序で行うことが大切なのだということを実感させる。

展開部分で取り上げるレーシングカーも、作り方の手順を間違えると完成しないということから、正しい順序で作ることが必要であることを伝える題材になると考えた。

8 指導計画 (全12時間)

次	時	○児童の活動	◇指導上の留意点 ・支援	☆教科の評価【観点】 [評価方法] ★プログラミング教育の視点
一	1 2 本 時	○教師の発表を聞いて、やり方の順序を考える。 ○学習活動についての見通しをもち、カードにする題材を決める。	◇教師の発表を聞いて、手順を分かりやすく書くことができるようにする。 ◇自分が得意なことや紹介したいことについて、図書資料を参考にしながら決められるようにする。	☆【関心・意欲・態度①】 ★1-③【技能】 ★2-①【課題把握・手順の整理】 [付箋・ワークシート]
二	3	○横書きや箇条書きなど、「おすすめカード」の構成について話し合う。	◇説明書の構成の主な特徴について、項目ごとに確認させていく。	☆【知識・理解・技能①】 [ノート]
	4	○本文を書くときの工夫を話し合う。	◇教科書や図書資料を用いて、分かりやすく伝えるための表現方法や工夫について考えさせる。	☆【関心・意欲・態度②】 [発言・ノート]
三	5	○題名、前書き、箇条書きの見出しを考える。	◇「読み手である友達が思わず読みたくなる」ことをポイントとして、考えさせる。 ◇教科書や図書資料をヒントにする。	☆【関心・意欲・態度③】 [発言・ノート]
	6	○書くのに必要な材料を集め、自分が書く内容をメモ形式にまとめる。	◇前時に決めた順番をもとに、メモ形式で具体的な手順ややり方の説明の言葉を考えさせる。	☆【書くこと①】 ★2-①【課題把握・手順の整理】 [ノート・ワークシート]
	7 8	○メモの項目に沿って、下書きをする。 ○説明の内容や書き方のよいところ、直した方がよいところなどを見付ける。	◇友達同士で読み合い、文章の中で直した方がよいところや付け足した方がよいところを見付けられるようにさせる。	☆【書くこと②】 ★1-③【技能】 ★2-①【課題把握・手順の整理】 [カード]
	9 10	○前時までで作ったメモや下書き、改善点をもとに、	◇前時までのメモや下書きを参考にし、分かりやすい表現で書く	☆【書くこと③】 ★2-①【課題把握・手順の整理】

		「おすすめカード」を書く。	ことができるようにする。	[カード]
四	11 12	○書きあがった「おすすめカード」を友達と読み合ったり、実際に試してみたりして、感想を伝え合う。	◇実際にできるものであれば、「おすすめカード」を読み終わった後に、実際にやってみる場を設ける。 ◇友達の「おすすめカード」の中で、工夫されていたと思ったところを伝え合えるようにする。	☆【書くこと④】 ☆【書くこと⑤】 [カード・発表]

9 本時の活動

(1) 目標

- 学習への意欲や見通しをもち、順序を意識して、分かりやすく説明の手順を書くことができる。
- レーシングカーの作り方について、フローチャートを活用し、相手に分かりやすくなるように考えて、手順を整理することができる。(プログラミング教育の視点)

(2) 展開

分	学習活動	◇指導上の留意点 ○支援 ☆教科の評価【観点】 [評価方法] ★プログラミング教育の視点
10	1 本時のめあてを確かめる。 ○教師が、しおりの作り方について、写真と文章を用いて示す。	◇本時のめあてを確認し、学習の見通しを立てる。 ◇しおりの作り方を、電子黒板で写真と文章で一項目ずつばらばらに提示して、どの順序で行ったらよいか考えさせる。 ◇児童に作り方を聞き、反応した通りに作って見せて、うまくいかないパターンを提示し、どのように相手に伝えたらよいか考えさせる。 ◇しおりの作り方の手順を並べたものを提示し、「フローチャート」という言葉と内容を説明する。
相手に分かりやすいせつ明を考えて、作り方をじゅんじょよくせい理しよう。		
30	2 順序を考えながら整理する。 (1) 個人で考える。 ○ミニ工作「レーシングカー」の完成品を見て、作り方の手順を想像して書く。 ①竹串とストローを切る。 ②キャップ2個を、ビニールテープで貼り付ける。 ③キャップの中心に穴を開ける。 ④トイレットペーパーの芯に、4か所穴を開ける。 ⑤ストローをトイレットペーパーの芯の穴に通す。 ⑥ストローに竹串を通す。 ⑦キャップを竹串にはめ込む。	○レーシングカーの材料を、電子黒板で提示する。(ストローや竹串はあらかじめ切ったものを提示する。) ◇付箋の書き方で、気を付けることを指導する。(文字を大きく書く、内容は短く書く等) ◇分かりやすく説明する相手は「1年生」であるということを確認する。 ○レーシングカーをペアで一つ用意し、近くで見たり触ったりしながら考えられるようにする。 ◇手順の書き方の例として、先に「①竹串とストローを切る」と「⑤ストローをトイレットペーパーの芯に通す」は必ず入れる手順として黒板に提示し、全員で確認をする。 ◇付箋は、作り方の手順が7つであり、そのうち2つの手順を先に提示することから、細かく区切っても手順を1つ足す程度と予想し、一人8枚以内で、レーシングカーの作り方を書けるようにする。 ○付箋は、ペアで2色(黄、黄緑)用意する。(3人グループは

	<p>(2) ペアで考える。</p> <p>○「分かりやすく説明できているか」のポイントを意識して、順序よくやり方を書くことができているかペアで確認する。</p> <p>(3) 全体で考える。</p> <p>○ペアで作ったフローチャートを全体で共有して、「分かりやすく説明できているか」確認する。</p>	<p>一人が青を使う。)</p> <p>◇導入で行ったしおりの作り方のよう、順序を考えながら付箋に文章を書けるようにする。</p> <p>☆【関心・意欲・態度①】</p> <p>学習への意欲や見通しをもち、伝える相手を意識して、順序よく手順を書こうとしている。 [付箋・ワークシート]</p> <p>◇隣の席同士でペアを作り、フローチャートを見せ合い、お互いに考えが交流できるようにする。</p> <p>◇ペアでフローチャートを見ながら、よりよい言葉を選び、お互いの付箋を組み合わせ、新しい1枚のフローチャートを完成させる。</p> <p>◇友達の考えを聞いて、付け足すことがあったら、ピンク色の新しい付箋に書いて付け足してもよいことを伝える。</p> <p>◇作り方のポイントを示すことができるようにする。</p> <p>◇フローチャートができあがったペアは、レーシングカーを実際に分解して作り直し、フローチャートの付箋が分かりやすく書けているかを確認してもよいこととする。</p> <p>★1-③【技能】</p> <p>作り方について、手順を整理し、フローチャートに表している。 [付箋・ワークシート]</p> <p>★2-①【課題把握・手順の整理】</p> <p>具体的な手順を相手に分かりやすくなるよう考えている。 [付箋・ワークシート・発言]</p> <p>◇ペアで作ったフローチャートをそれぞれの机に置き、見て回る時間を設ける。他のペアのフローチャートを見て、分かりやすく書けているか確認する。</p> <p>◇実物投影機でフローチャートを映し、工夫したところやポイントを、いくつかのペアに発表させる。</p> <p>○最後にレーシングカーの作り方を、教師が一つの例として提示し、確認する。</p> <p>◇それぞれ言葉の選び方や書き方が違うことを認め、書き方は一通りではないことを伝える。分かりやすく説明するためには、様々な工夫ができるということを伝える。</p> <p>◇順序を間違えると、レーシングカーが完成しないことに気付かせる。</p>
5	<p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>○ワークシートに、本時の振り返りを書く。</p>	<p>◇次時からは、自分の得意なことや紹介したいことを、分かりやすく手順を考えながらカードに書いていくことを伝え、学習の見通しをもたせる。</p>

(3) 板書計画

<p>しおりの作り方 フローチャート</p>	<p>まとめ フローチャートにすることで、手じゆんを 分かりやすく伝えることができる。</p>	<p>レーシングカー の作り方</p>	<p>フローチャートの ポイント</p>	<p>こんなやり方をおすすめします ◎相手に分かりやすいせつ明を考えて、作り方を じゆんじょよくせい理しよう。</p>
		<p>今日の活動 ①一人で ②ペアで ③みんなで</p>		